

平成七年度

慰霊祭 総会 直会



マーシャル方面遺族会  
 (旧クェゼリン方面戦没者慰霊会)  
 〒103 東京都中央区  
 日本橋人形町1-8-2  
 電話 03-3661-8760  
 FAX 03-3661-6241  
 振替東京 00100-0-93487  
 編集兼発行人 佐藤宗正

会員章



石澤洋子

感を一層深くしました。

平成七年四月八日(土)終戦五十年を迎える今年の慰霊祭、総会並びに直会が靖國神社で盛大に開催されました。昨日の雨に清められた桜は絶好の日和りに恵まれて丁度今日満開となり、ひとときわ気高く色鮮やかに咲き誇っています。参列者は昨年の玉碎五十年祭には及びませんが、それでも平年並みの二百三人になりました。受付けで頂いた参列者名簿に知り合いの名前を見つくるのは嬉しいものです。

定刻十時、みたらして心身を清め、拝殿に正座してお祓いをうけ、心静かに回廊を渡って御本殿に昇りました。祭典は「山の幸」の奏楽と共に神饌が献じられ、祭主の祝詞奏上、玉串奉奠の後佐藤会長から祭文が奏上されました。祭文は印刷して配られていたの、意味が理解できて祭典に参列した

玉串奉奠の代表者には、会長のほか、妻の代表に群馬の日向野キク様と岐阜の吉田 綾様、兄弟姉妹の代表に、千葉の豊谷美恵子様、神奈川の穴戸献吉郎様、長崎の山下タエ様、愛媛の松友公子様、子の代表に愛知の浜田芳枝様、鹿児島島の村上義博様、ひ孫の代表には神奈川の内田優作君(五歳)以上の十名が奉仕しました。

参列者一同は、代表に合わせて拝礼し、しばし黙祷して亡き御霊を偲び、またの日を約して退下、回廊で御神酒と御神饌を頂きました。遊就館前で記念写真を撮り、十一時二十分から靖國會館二階の大会議室で定期総会を開き、石谷幹事の司会で晝間常任幹事を議長に選び、議事に入りました。会長の呼びかけで、一月十七日の阪

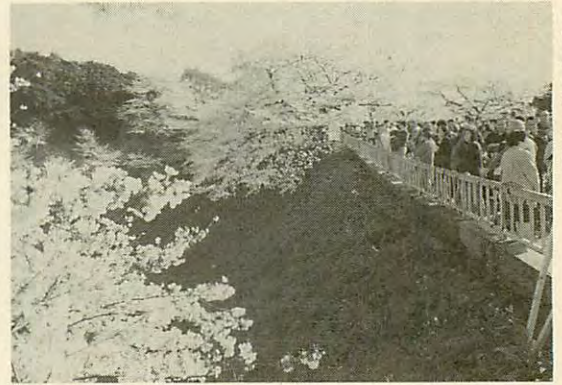


目次

平成七年度 慰霊祭 総会 直会	1
来年の慰霊祭は3月31日です	2
役員等決定	3
お便りの中から	5
長谷川栄次 高橋とし子	
榊山 コウ 篠崎 英夫	
山口 雄平 ラボイント・英子	
高林 セキ 平林 和夫	
富田 ミツ 徳原 勇・徳子	
本埜 和昭 長谷川 敏	
大熊 正美 安藤 啓次	
塚原 ハナ 佃 喜美	
大町 末子 上原 帝二	
服部くにゑ 徳弘 萩子	
蓮尾 敬子	
お元気ですか?	11
高橋 吉正 相馬 ツキ	
木村恒三郎 奥山 キノ	
鈴木梅太郎 山田 雪子	
思い出ずるままに	12
鎮魂50年誌「南十字星」刊行	13
欧洲紀行	13
私の生涯学習	13
尋ねびと	13
会友井上義夫さんを悼む	13
名簿訂正	14
寄付者芳名	15
創立十五周年を迎えた	16
靖國神社奉賛会	16
本部便り	16



お濠端の桜は満開



り、慰霊の灯を消さないためにも「環礁」を魅力あるものとして、会の永年存続を図りたいと述べられました。

会務計画と予算が可決され、次に任期満了による役員の内任は、会則の規定する手続きを経て後記の通り選任され会長から、役員とボランティア（佐藤会長夫人と晝間常任幹事夫人及び佐久間パート職員）が紹介されました。

以上で予定の議事を終了した時、千葉県の相川孝夫様から「本会は一致協力して、永年に亘り戦歿者慰霊に大きな業績をあげてきた歴代の会長ほか、役員のご努力に感謝したい」と発言があり、大きな拍手が起りました。

神淡路の大震災と三月二十日の東京地下鉄サリン事件の犠牲者および三月十四日に逝去された栗原利雄監事の御霊に黙祷を捧げました。

次に会長から六年度の会務の主なものの、五十年祭、現地慰霊、記念誌編集などの報告があり、黒川幹事から会計報告（別掲）高橋監事から監査報告があり以上の三件が承認されました。

次に七年度の会務計画として、記念誌の継続作業、会報「環礁」の発行と、予算案（別掲）が提案されました。特に、今年には終戦五十年の年に当たり、他の遺族会、戦友会等では活動停止や解散の声も聞かれるが、本会の場合は異国に墓苑を有している特殊事情があ

総会を終えて直会となり、黒川常任幹事の司会により福島富田様の発声で乾杯し、奉納芸能は昨年と同じ錦正流一門の大正琴の演奏に耳を傾けました。曲は同期の桜、南洋航路、船頭小唄、あの椰子の島など、英霊たちが口ずさんだと思われる曲が選ばれていて、お心遣いがありがたく思いました。懇談に、カラオケに楽しいひと時を過ごし午後三時散会いたしました。

### 来年の慰霊祭は

三月三十一日です

平成八年の定例慰霊祭は、桜の季節三月三十一日（日）に靖國神社で行います。カレンダーに書き入れて下さい。総会、直会などの詳しいことは次号の「環礁」64号を御覧下さい。

## 祭 文

謹んで大東亞戦争中、マーシャル群島ギルバート諸島及びその周辺海域で散華されました参萬餘柱の神霊に申し上げます。

皆様方は、祖國防衛の崇高な任務を擔はれ、味方の軍艦一隻、飛行機一機の支援もない南溟の孤島において、或は我に幾千倍の戦力を有する強敵を迎討つて玉碎され、

或は一切の補給の途絶へた絶海の孤島を、本土の戦備の整う日まで死守しやうと悪戦苦闘の末、尊い御命を御國に捧げられました。祖國の命運を賭けた聖戦も、時に利非ず敗戦の憂目を見ましたのは、

一億國民痛恨の極みて御座いました。私共は、皆様方の御遺志が家族の幸せと國家の安寧にあられたことに思ひを致し、幾多の困難を乗り越えて今日に到りました。

神霊の御加護は尊く、今やわが國は世界の歴史に未だ曾て例を見ない平和と自由と繁榮の恩恵に浴して居りますが是は偏に祖國と同胞の平安を念じながら散華された皆様方の尊い御献身の賜であります。

光陰矢の如くあの日から既に五十年の歳月が流れ悲痛な歴史も次第に風化しやうとする風潮も見受けられる時勢となりました。

いま國會で、先の大戦は日本の侵略戦争であつたとの前提に立つて「不戦・謝罪の決議」が行はれやうとしております。

大東亞戦争の本質解明の勞を怠り、支配者の一方的論理による軍事裁判の判決に低頭して、自らの祖國に犯罪者の烙印を押すに等しい行為は靖國の神霊に對して誠に申しわけなく、憂慮に堪へない次第で御座います。

私共は、皆様方の清き明き直き御心を承繼いて、祖國並びに世界の平和と繁榮に盡すため、今後とも不斷の努力を致すことをお誓ひ申し上げます。

何卒私共の行く先を御照覧賜はりますやう、併せて神霊の永遠に安らかに神鎮りまさんことを心より御祈り申し上げます。

平成七年四月八日

マーシャル方面遺族會

會長 佐藤 宗 丕



本会の役員等の決定

本会の役員等が、総会及び役員会の決定により夫々次の通り選任又は委嘱されました。任期は何れも二ケ年です。

- 佐竹 正雄
- 荒木 エス・山口
- 佐藤 宗丞
- 佐藤 宗丞・黒川 誠
- ☆ 広報委員 誠・書間 樂平
- 同 山 村 永
- 同 松 平 栄
- 同 長谷川 栄
- 同 長谷川 次
- 同 並木 進
- 同 徳原 子
- 同 土屋 郎
- 同 有田 年<sub>3</sub>夫
- 同 高橋 鎮
- 同 佐竹 エ
- 同 山口 良
- 同 高林 芳
- 同 内海 淑
- 同 石谷 典
- 同 荒木 常
- 同 幹事 間 常
- 同 黒川 樂
- 常任幹事(会計) 黒川 誠
- 会 長 佐藤 宗丞
- 相 談 大 給<sub>キヨシ</sub> 子
- 顧 問 栗 林<sub>キヨシ</sub> 徳五郎

第31期決算報告書 (自平成6年1月1日 至平成6年12月31日)

マーシャル方面遺族会

第32期一般会計予算

(自平成7年1月1日 至平成7年12月31日)

1 一般会計収支計算書

2 一般会計財産目録 (平成6年12月31日現在)

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	6,782,835
会 費	1,296,500
寄 付 金 等	2,363,875
受 取 利 息	305,763
雑 収 入	19,820
(小 計)	(3,985,958)
合 計	10,768,793

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	26,554	預 り 金	45,000
普 通 預 金	643,176	未 払 金	8,744
郵 便 振 替	27,760		
金 銭 信 託	2,023,894		
定 期 預 金	4,582,461	次 期 へ 繰 越	7,250,101
合 計	7,303,845	合 計	7,303,845

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	7,250,101
会 費	1,000,000
寄 付 金 等	1,000,000
受 取 利 息	250,000
雑 収 入	150,000
(小 計)	(2,400,000)
合 計	9,650,101

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	845,491
運 営 費	696,060
事 務 所 費	600,000
広 報 費	776,757
印 刷 費	5,150
刊 行 費	7,936
通 信 費	177,461
消 耗 品 費	27,518
会 議 費	269,276
送 金 諸 費	34,948
公 租 公 課	61,006
雑 費	17,089
(小 計)	(3,518,692)
次 期 へ 繰 越	7,250,101
合 計	10,768,793

3 特別会計(現地慰霊碑維持基金勘定)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期より繰越	7,500,000		
		次 期 へ 繰 越	7,500,000
合 計	7,500,000	合 計	7,500,000

(注) 定額貯金及び貸付信託として保管。

監査の結果上記の報告は適正且つ正確であることを認めます。

平成7年2月21日

監 事 高 橋 鎮 夫 ㊟

同 栗 原 利 雄 ㊟

会 長 佐 藤 宗 丞 ㊟

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	500,000
運 営 費	500,000
事 務 所 費	600,000
広 報 費	700,000
印 刷 費	10,000
刊 行 費	4,900,000
通 信 費	200,000
消 耗 品 費	20,000
会 議 費	220,000
送 金 諸 費	32,000
公 租 公 課	50,000
雑 費	10,000
(小 計)	(7,742,000)
次 期 へ 繰 越	1,908,101
合 計	9,650,101





☆ 厚生省の人事異動  
 本年四月の異動で社会・援護局業務  
 第一課長に並木進様が、同第二課長に  
 有田 年(みのり)様がそれぞれ就任  
 されました。

計 報

監事栗原利雄様は病氣療養中のご  
 ろ平成七年三月十四日御歳七十四歳を  
 以て逝去されました。  
 謹んで御冥福をお祈りいたします。

明治天皇御製

我國の為をつくせる人々の  
 名もむさし野に  
 とむる玉かき

靖國神社御本殿上壇の間扁額  
 明治七年一月二十七日

慰靈祭参列者芳名

(敬称略、順不同)

今年四月八日(土)の慰靈祭に次の  
 皆様が参列されました。参列しても受  
 付で手続きをしなかった方は掲載でき  
 ません。参列された方は二百三名で、  
 氏名のわからない方は十四名です。

- 松平 永芳
- 篤志会員 土屋 太郎 同 夫人
- 青森 須藤 明子
- 岩手 小杉 サヨ
- 宮城 伊勢 照男 高橋とし子
- 小松 順子 松木 孝子
- 秋田 奥山 キノ
- 山形 長岡 仙一
- 福島 富田 ミツ 富田 キミ
- 小賀坂四郎
- 茨城 安藤 啓次 安藤 やす
- 大熊 正美 大熊 里子 倉橋 次子
- 中島 元子 北條 晃 北條 重春
- 若狭 明光
- 栃木 猪瀬 ナカ 高橋 克磨
- 群馬 日向野キク

- 埼玉 井沢 なを 小野 博孝 片桐 温子 内山 浅子 大石 純一
- 近藤 マスエ 小室 貞男 小室 洋子 大石アサ子 大石 岳男 大石美代子
- 櫻井 かね 柴田 貞子 鈴木 裕子 大石 美奈 内田 美穂 内田 優作
- 千田 恒子 野田 雅子 服部 陽一 松坂 美佳 岡野 正文 金子 武晴
- 藤田 清瀬 天野 好子 山下 みつ 栗田千代子 佐藤 隆一 佐藤 章子
- 千葉 相川 孝夫 岩佐 とみ 六戸 献吉郎 田中 菊枝 大畑ヒデ子
- 浄永 孝 浄永 実 豊谷 秀光 吉江 菊枝 谷 達也 服部 純昌
- 豊谷美恵子 芳賀タツエ 宮本 豊吉 松江 正子 安威 和子 安室 慶二
- 谷沢 英子 青木 利一 秋元 輝夫 新保 晃 高林 セキ 坪井 繁男
- 東京 石谷 典夫 石川 勲 藤田 正勝 山田 正三 山田キヨ江
- 荒木 常子 林 和 太野垣幸代 米田 トシ 米田 豊治
- 浮田 櫻代 遠藤 安男 片岡 良子 富山 村棍 光栄
- 内海 淑子 黒川 誠 黒川 直吉 福井 田賀 将一 田賀 朋子
- 加藤 照 黒川 下浦 恒寿 田賀 英子 田賀 奨 田賀 護
- 小林 法子 島崎 正猪 齊藤耕太郎 田賀 茜 坪内 一枝 山田 二美
- 小山キミ子 齊藤 英美 佐藤 エス 長野 伊藤ますの 吉田 正明
- 佐藤 宗丞 佐藤 ナヲ 白井 勝年 岐 卓 吉田 綾
- 篠崎 英夫 白井まさ子 白井 昇 吉田 礼子 野崎 豊秋 服部くにゑ
- 白井小夜子 白井 正恵 菅沼 昇 静岡 野崎 豊秋 服部くにゑ
- 菅谷喜代子 高林 芳夫 高橋 鎮夫 三浦 たき 野崎 豊秋 服部くにゑ
- 佃 喜美 中村 順子 長岡フジ江 愛知 濱田 芳枝
- 西沢 和子 沼山 正英 布川 慶一 大 阪 府 植野八重子
- 浜田つき子 伊藤たつ子 長谷川智子 兵 庫 安福 道明 安福きよ子
- 蓮沼 常子 蓮沼 一栄 番場 信子 香 川 秋山 武 金森 佳子
- 晝間 樂平 晝間志津子 広田 省三 金 森 越哉 眞鍋 信一 眞鍋 公代
- 鈴木喜久子 間々田やす 田島智恵子 眞鍋 正美
- 嶺井倭文子 石塚 文子 望月とよ子 眞鍋 正美
- 森田 穰二 安井 文子 吉村ヨヨミ 愛 媛 松友 公子
- 吉村 昌晃 奥村ムツミ 柳沢 正雄 高 知 徳弘 萩子 馬場 常
- 山森 久江 山口 裕子 山口 良二 長 崎 川 副 克己 森 好一
- 佐久間フミ 赤坂 スズ 石沢 洋子 森 好一
- 神奈川 赤坂 スズ 石沢 洋子 森 好一
- 石沢 春男 岩田とし子 内藤つる子 鹿 児 島 村上 義博 村上 芳江



## お便りの中から

篤志会員 長谷川 栄次  
(元横浜航空隊飛行隊長)

冠省 今回は何という立派な記念誌

「南十字星」をお送り下さり、お礼の言葉もない程結構な本です。陸海軍を通じ、色々の記念誌が発行されていますが、この「南十字星」ほど要領よく纏められたものは見当りません。

他の出版物は徒らに頁数は多いが、その内容は大した記事でなかったり、又あのような立派な写真が多数入っているのも珍らしく、更に遺族会誌本来の目的に合うように毎年の慰霊祭、或いは現地慰霊記事も多くせられていて等、編集に当られた方々の知恵を集めての完成に全く感心しました。我々もこの種の誌を作る時には、本誌を手本にしたいと思えます。

あの各島の戦後の写真、クエゼリン、ルオット、ブラウン、タロアその他の島の写真を見ると何と懐かしい事か、ここに設けられてある戦時の遺跡や、記念碑、飛行場跡等々を見る時、ここで戦死された方の心境を想い、同時に御遺族がこの戦跡を御覧になった時のお気持ちを思う時、私の心中には何とも云えぬ複雑な気持ちが浮かぶのです。そしてもう一度是等の島々を巡りたい思いが湧くのです。

実は是等の島々は、戦前私が横浜航空隊に勤務中、一ヶ月半をかけて各島を調査して色々な報告をした。その中にはルオットの如く飛行場適地と報告した為に、その結果あのような飛行場が完成し、やがて戦争となるや航空隊が設置された。

そして最後はあのような悲しい玉砕となり、今思うと私が飛行場適地と報告しなかったら、飛行場も設置されなかっただろう、航空隊も駐屯しなかったであろう、そうしたら玉砕もなかった筈で、これを通してと私があのような報告をした為に、多くの人を戦死させたと思われる御遺族に合せる顔がない。

もう一度あの島を訪れて見たい気持ちがするのです。かと申して御遺族と一緒に行ったのでは全く相済まぬ気がして、平あやまりしても尚お詫びし切れぬ状況、誠に複雑な気持ちでいる今日この頃です。平常は忘れていても、このような懐かしい写真を見ると、その度にこの事を思い出します。

本日に結構な記念誌をお送り下さいまして有難く厚く厚く御礼申し上げます。せめて本年の内地での慰霊祭には参列させて頂いて、御遺族に御詫びしたいと思えます。

私も九十四歳となりましたので、或いはそれまでに成仏するかも知れませんが、充分に気をつけ何とかしてそれまで生き伸びたいと思えます。

今この誌を読んで改めて当時の事を思い出しています。

本日に有難うございました。これは何時迄も手許に置き時々拝見させていただきます。(7・2・27)

宮城県 高橋 とし子



三月ともなれば寒いと云い乍らも、庭の木々の芽もふくらんで、日一日と春らしく感ぜられる今日此の頃でございます。

遺族会の皆様には何時も御世話様になり御礼の言葉もございません。先日は「南十字星」を御送り下さる有難く拝見しております。

私も昭和六十一年に主人が戦死したウオッセ島に慰霊巡拝に行つて来ましたが、誰方も主人を知っている人が居らず、果してウオッセ島で戦死したのかどうか未だに疑問に思っています。公報には(ウオッセ島方面となつてます)これが心残りでございます。

年齢も八十五歳になり何時お迎えが来ても惜しくない年になりましたが、

至つて元気で毎日他人様の着物を縫つて暮らして居ります。そして月に二回づつ公民館に行つて詩を吟じ、又お寺さんに行き御詠歌を歌つたり、又は写経をしたりしています。

去年は主人の五十年忌に当りますので般若心経を書き、掛軸にして五人の娘達に一幅づつ記念に送りました。そして秋保温泉に一泊し孫、曾孫総勢四十三名が集まり、主人の思い出話に花が咲きほんとうに良い思い出となりました。

今はなんの心配も無く、母としての責任を果して残り少ない人生を楽しく生きますよう……今はこんな心境でございます。

甚だ悪筆にて申訳ございませんがどうか御判読下さる様御願ひ致します。先ずは末筆乍ら皆々様に宜しく。主人の写真と同封致しますので宜しく御願ひ申し上げます。横須賀気附ウ八三、ウ一三二これで文通をしておりました。(7・5・13)

愛知県 樺山 コウ  
(川越) 83歳

新しい年もはや三月も終りを告げようと致しております。

いつも会長様はじめ皆々様に大変お世話様に成りまして厚く御礼申しあげます。

此の度は「南十字星」と云う立派な五十年鎮魂誌を御恵送頂き、会長様の



「祭文」そして「南十字星を仰いで」を拝読し一言一句只々感動と感激で一杯でございます。十六頁の玉碎の島ル

オット島を眺め此の島での勇士の方々ははじめ、主人の此の司令部での最後の瞬間を想い慟哭致しました。

而し阪神大震災で家屋の下で圧死され焼死された方々に比べ、軍人として国の為立派に玉碎いたしました主人達は倅せでございました。

もう一度ルオット島に慰霊に行き度いと思いますが、八十路を越しまして思うにまかせず残念に存じます。

朝に夕べに殉国の御霊安らかにとお祈りいたしております。

◎五十年に憶う

目に沁みる 真白き夏の軍服を

着けし亡夫 枕辺にたゝる

散りまして はや半世紀過ぎたれど

夢路の夫は若くほゝえむ

なかなか 涙かれざり玉碎の

夫早や五十年を過ぎしと云うに

◎ルオット島に慰霊して

此の島の 此の土地踏みし吾が夫よ

玉碎の地に今ぞ吾れたつ

珊瑚礁 血潮に赤く濡れたらむ

吾は黙して只祈りつ、

先生について勉強致しております

只心のままに詠みました。

(7・3・19)

会友 篠崎 英夫

(元五三一空主計長)

私は、昭和六十一年八月、貴会のご配意により、第九回現地慰霊団に参加させて戴き、私が終戦を迎えたウオツゼ島に再び足跡を残すことが出来ました。終戦から四十年、再びウオツゼ島に立ったとき、鎮魂、追慕の念に感無量でした。島のたまたまは四十年前と変わらず静かな緑深い島がありました。時の流れがとまったような感じが致しました。

今年はこの島に、ハイスツールが完成するとも聞いております。どうなるのでしょうか。更に五十年たつたら、どうなるのか。この島で激しい戦いが行われ、二千名近くの人がここで亡くなり、大部分はこの島に眠っていることを、この島に住む人々の心に留めて戴きたいと念願しております。

出来ませれば、この島に住む方々の友好親善を深めたいと思っております。

この度貴会御労作の 鎮魂 五十年記念誌「南十字星」をご惠贈下され有り難く拝受致しました。

厚くお礼を申し上げます。五十年祭を機に記念誌を発行されましたこと、まことに時宜にかなうもの、しかも内容まことに充実、鎮魂追悼の想いが行間に滲み出ております。まことに次世代に遺す貴重な好資料と考え

られます。

貴誌発行、重ねて心からお慶び申し上げます。(7・4・8)

マジユロ 山口 雄平

阪神大震災で明けた平成七年も時季外れの大雪と共に、桜前線予想が出されて居りますが、常夏の島マーシャルでは南洋桜(火炎樹)の真赤な花が咲き乱れて居ります。

三月七日「南十字星」誌を拝受致しました。遺族会とは直接には関係の薄い私如きに御送本の御配慮を賜り誠に恐縮に存じます。誠に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

戦後五十年、半世紀の一区切りを機に日本も新しい方向に進む様に思われますが、私達が信じている日本国民が、決して破滅に向う等とは思われませんが、大東亜圏の指導的立場に在る日本が今後、私権のみを強く要求し義務を忘れつつある若い世代をどの様に教育し、改革してゆくのかを楽しみに見ております。

時折離島を訪れる時には英霊の静かに眠る地に日本酒等を持参し、大日本帝国の繁栄を信じて愛しい肉親の為国家の為に生命を投げ出された幾多の若い英霊に、心から慰霊する私ではあります。今の私にはそれ位の事しか出来ぬ事に情なく思う昨今です。

本日、海上保安庁の航空機がマジユロに飛来し、今後日本とマーシャル両国の協力の許に、海難救助の協力態勢の強化が為される事に大きな喜びを感じて居ります。

日々マーシャルも変化し、国連に加盟した一独立国として世界のお荷物にならぬ様に努力している姿は美しく思われます。国民も官僚も国会議員も一丸となって新しい知識、そして諸々を導入し、恐らく五十年後には素晴らしい国となる事と想います。末筆ながら会長様を始め会員皆々様の御健勝にて御活躍されん事を遥かに御祈り致しております。(7・3・8)

クワジエリン ラポイント 英子

前略 まだまだ寒い日が続いていると想いますが、その後遺族会の皆様方お変わりありませんでしょうか。

さて、先日素晴らしい五十年記念誌を送って下さって有難度うございます。とても良く出来ており、この記念誌をここまでまとめて、完成させるまでには佐藤会長さん始め役員の方々の御苦労がうかがわれ、頭の下がる思いです。大切に保存させて頂きます。

御遺骨の件ですが、現在のところ日本の外務省と、マーシャル諸島共和国との話があり進んでいないよう、私もがっかりしています。(註1) 去年日本の共同通信社のリポーター



が、カメラマンを連れてクワジエリンを訪れ、戦後五十年記念の記事を書くのに必要な資料を集めて行きました。その際に遺骨に関する資料もまとめていったのですが、ご覧になりましたか。

(註 2)

それでは、会員の皆様方の御健康をお祈り致しております。

平成七年三月二十七日

(註 1) 一九九三年九月にラポイント夫人から「クワジエリンとロイ・ナムルで発見された、アジア系人種と思われる遺骨(米陸軍病院の鑑識)が、自分の勤務している陸軍病院に保管されている」とのお手紙を頂きました。この手紙を厚生省に提出し、同省は外務省に交渉を依頼しております。

遺骨の国籍判定が障害となつていないか、と推測されます。

(註 2) 共同通信社から配信された記事は、平成七年一月一日から二月中旬までに、全国の十数社で報道されました。クエゼリン、パラオ、ミリの各環礁の現状が紹介されています。遺骨についての記載はありません。

新潟県 高林 セキ

日脚も長くなり、何となく春めいてまいりました。

この度は五十年記念誌「南十字星」をお送り下さいまして、有難うございました。

立派な本を霊前に供えて、想い出も新たに懐かしく拝見させて頂きました。素晴らしい写真記録、マーシャルの島の写真、墓参の模様などきれいな写真がズバリ、肉親との対面に御霊も、どんなに喜ばれたでしょうか、感慨無量です。

昨年(六年)の現地慰霊には、特に高齢の方が多かったようですが、皆さん肉親の御霊にお逢いできた喜びか、若々しくお元気そうに写っていらつしやいます。

五十年祭参列者の写真は、大勢ですが一人一人の顔がよくわかつて、懐かしく思いました。

思えば昭和五十年八月十日第一回現地慰霊に、私も参加させて頂きました。その折には希望者八名が小型機で、マロエラップ島にもお参りいたしました。その島の激戦地の戦跡、建物の残骸、なにかも粉々になつていた通信室、その屋上で撮っていただいた貴重な写真も掲載させて頂いたばかり懐かしく嬉しく思いました。

会にお世話になつてから二十年の月日が流れて、五十頁の写真の右端の前会長浮田様、その隣の秋山正清様お二人とも他界されました。

南の島に眠る英霊も「南十字星」の完成をどんなにか喜んでおられることでしょう。その魂は南十字星を仰いでいることでしょう。

編集に携わつた方々に心より厚く厚

く御礼申し上げます。有難うございました。(7・3・1)

会友 平林 和夫  
(元二五二空主計長)

拝啓 毎日お寒い日が続いていますがいよいよご健勝に御精励の御事心よりお祝い申し上げます。

いつもマーシャルの遺族会のことについてお世話様になりありがとうございました。祭記念号をお送り下さいましてありがとうございます。是非一度お参りに上りたく予定していましたところ、家の母が重い病になりました。高齡のためむずかしいとのことで、残念ながらもなお参りに上らせて頂けません。何とぞお参り下さいます。皆様にはよろしくお伝え下さい。さて本日は「南十字星」の記念誌をお送り下さいまして急いで開封し詳しく拝見致しました。大そう立派に出来上り、全くこの上なき出来栄えに只々感銘感嘆させられました。

お心のこもつた立派な編集で、鳥々の写真もなつかしく、特に私も行ったことのあるクエゼリンも、ルオットの司令部の建物も(私はその二五二空柳村部隊の副官部に毎日出勤していました)又、マロエラップの島々もなつかしく、特に墓碑をおさめて頂いて本当にありがたく存じました。墓碑は戦後米軍の爆撃によって跡形なく破壊さ

れて了つたようですが(「環礁」8号3頁)一度は尋ね往時の話を孫にも聞かせておきたいと思つています。

何ともよいお仕事をしておりました。心からお礼を申し上げます。何れよい折に目にかからせて頂きたく存じます。くれぐれもご自愛をお祈り申し上げます。とり急ぎ御礼まで申しあげます。 敬具

(7・2・27)

福島県 富田 ミツ

ご無沙汰致しておりますが、東京は大分暖かになりましたとのニュースで喜んでおります。先日は会長様大変お骨折りを厚く御礼申し上げます。

四月八日を楽しみに致しております。こちらはまだまだ桜どころか梅も咲きません。春とは名のみ東北でございます。

「南十字星」を拝読して会の発足以来の歴史が手に取るように書かれて誠に立派な記念誌で感謝しております。

昨年来五十年誌編集に、会長はじめ役員の皆様方どんなにかご苦勞を重ねられた事と存じます。厚く御礼申し上げます。

この記念誌を拝見した直後私は、ニエーゼーランドに旅行しました。日本のポツダム宣言受諾文書に署名される写真とこの終戦の詔書が展示されてお



り、日本人が集中して見ておりました。現地ガイドの説明では、ここ以外に見る事はできないと申しておりましたが、この記念誌に貴重な文書が残された事を感謝致しております。

英霊をお祀りしてある靖國神社と、私たちの遺族会を、遺族と戦友の皆様が何時までも見守って下さいませようをお願いしております。

娶らざる君に捧げん靖國の

宮居に供うる花嫁人形

征き際に母を頼むと手を握り

発ちたる君の最後なりしか

(7・3・18)

ラスベガス 徳原 勇・徳子

(篤志会員)

50年記念誌「南十字星」を数日前受取りました。数々の思い出深い写真、充実した内容に深く感動し、私共のマーシャルでの生活の思い出を新たにしています。生涯の記念となるこの「南十字星」を大切に保管致します。ありがとうございました。

遺族会の皆様、ますます御元気で活躍の様子、お喜び申し上げます。

私共もおかげ様で元氣な引退生活を続けておりますが、あまり近所との交際もなく、新しい友人も出来ないためいつもハワイやマーシャルにいた頃の思い出を二人で話し合っています。ラスベガスの気候は東京並みの冬の

寒さが続きますが、今年は異常天候とか、二月頃から急激に暖かくなりました。我が家から少し車を走らせると、広々とした荒野が続き、美しい国立公園もあり、昔ながらのカウボーイ・タウンのムードをとどめたひなびた町もあります。住宅開発が続いているとはいえ東京やホノルルの様な土地不足の問題はなく、のびのびとした気持ちになれるのがラスベガスの最大の長所と思っております。

会員の皆様もアメリカ旅行をなさる際にはラスベガスにも立ち寄り、声をかけて下されば有難いことと思います。先ずは記念誌のお礼と近況のお知らせまで。

篤志会員 本埜 和昭

(元厚生省援護局課長)

拝啓 早春の候、御元気で御活躍のことと拝察いたしおよろこび申し上げます。

このたびは御労作の鎮魂50年記念誌「南十字星」を御恵贈賜り、ありがとうございました。

南十字星を拝読しマーシャル方面遺族会のご活動がよく推測できました。

寄稿された方がたの記事から、戦歿された方への愛情がにじみ出て、戦歿軍人の愛国の至情に頭が下がります。

わけても佐藤会長様の御苦勞はなみなみならぬものがあり、その積み重ねによって立派な鎮魂の誌が上梓された

ものと拝察しております。どうぞ御体を大切になさいます。今後ますます御遺族や会員の皆様のために御活躍されますよう希っております。御多幸と貴会の御発展を心から祈りしながら御礼といたします。ありがとうございます。

(7・3・6)

敬具

篤志会員 長谷川 敏

拝啓 春のお彼岸も近づき、ひと雨ごとに樹々の緑が増して参りました。

さて、過日は「南十字星」を私にまでお送付下されありがとうございます。しかも、小生の名前が貴重な紙面に掲載(38ページ)されておられ、恐縮に存じております。

立派な「南十字星」ができました。編集、資料はもとより、写真、装丁、紙質等々……すべての面に細かく心が配られており、まさに珠玉の記念誌です。特に「年表」には当時の社会的ユースも数多く含まれ、一層の深みが加わりました。これだけ多方面の資料の蒐集には、さぞ御苦勞なされたことでしょう。これで彼の島で玉碎された方々の御霊も「思い出を偲んでくれるのか」と幾分でも気が安まるのではないでしょうか……。

先月に御誌を頂きながら、暫く風邪をひき、御礼が遅れましたことをお詫び致します。なお誌代にも足りない事

と存じますが、貧者の一燈として少々寄附させていただきます。

乱筆乱文、失礼致しました。 敬具

(7・3・16)

茨城県 大熊 正美

「南十字星」を拝読して、忘れかけて居た過ぎ去った開戦からどん底に喘いだ当時を、手に取るような詳細な記録にして頂き、苦しみと悲しみが走馬灯のように思い出されます。

貴重な懐古録を感謝申し上げ、毎日少しづつ頁を追っては仏前に合掌して居ります。

私(68歳)の兄がタラワで玉碎し、写真一枚が入った遺骨箱を抱いて、毎日泣き暮れていた母(99歳)も遺族会が誕生し、「環礁」が発行され、同じ境遇の多くの皆さんが頑張っておられるお話を拝聴してやっと落ち着きを取戻して参りました。

昭和42年に浮田様、佐竹様が持ち帰ったタラワ島の靈砂をいただいたときは、兄と直接会ったような感じがしました。誠に有難く感謝しております。写真だけの物足りない壺の中に、血と心が沁み込んだ尊い感触に浸って丁寧に埋葬致しました。

この会が、くずれかけた我々親子の生きる支えになってくれた事を重ねて感謝申し上げます。

毎年の靖國神社の慰霊祭、直会は唯



一の語らひの機会として楽しみにしております。  
(7・3・20)

茨城県 安藤 啓次

何かと色々お世話様になっておりまして、誠に有難うございます。

五十年記念誌を拝受して一入の感を持って拝読させて頂きました。

実は、昨年の現地慰霊に家内とも是非参加したいものと、準備をし、医師の診断書を取ったりして、いよいよ申込みの段になったら、丁度その時体調をくずし、急遽取り止めざるを得なくなりました。誠に残念でしたが、出先でご迷惑をかけては申し訳ないと考えました。今では、もうすっかり元気になっておりますが、今回又心新たにこの五十年誌を読ませて頂きました。ほんとうに有難うございました。

尚巡拝に参加下さいました皆様にはまことご苦勞様でございました。この稿をかりて厚く御礼を申し上げます。元氣を取り戻した昨今では老人仲間が軽スポーツに興じております。ゲートボールや簡単なフォークダンス等々毎日を健康とコミュニケーションに又市報配布等もやっております。体に合った仕事も楽しく、お陰様で毎日を通じております。

毎年の慰霊祭、総会にはいつまでも参加したいと思っております。  
(7・3・8)

青森県 塚原 ハナ

ようやく寒い冬も過ぎ去り、今年もどうやら生き延びられたと、ホッとした感じです。

先日は「南十字星」をお送り下さいまして有難うございました。殊に題字は達筆で字も輝いて感激致しました。写真も美しく年表も良くほんとうに有難う御座居りました。

「環礁」をはじめて見ましたのは四十年頃です。タラワ玉砕は新聞で知りました。この辺ではタラワの遺族は分らないで何時も寂しく思っています。環礁を見てその翌年上京し皆様のお仲間に加えて頂きました。青い海を見たいと思ひ、四十五年にハワイ島に行き、この島の向うにタラワがある、何時の日か必ず行き度いものと決心致しました。

その後皆様方の御協力に依り五十二年に、とうとう念願が叶いました。これもマーシャル遺族会のおかげと深く感謝致して居ります。

翌年厚生省主催の慰霊団に参加致しましたが、何か島の様子が違うと思ひました。一度もスコールもなくきれいな虹もなく乾季のこと。こんな悪条件の季節に戦わなければならなかった兵隊さんを思い涙が止りませんでした。「あの島へ行くなら水だ。水だ」とおっしゃった太田 清さん(タラワ帰還者)

の言葉が良く分かりました。

五十四年にアメリカ西海岸へ行つた時は、この大国に日本は竹槍で立向かうとしたと思つたら、恥ずかしくばかりになりました。

五十五年にシドニーからニュージールランドに行った時、空にはキラめく星が四ツ「アツ南十字星だ」と叫び感激の涙を流しました。

同じ年に福岡から十五日間かけて洋上慰霊に参加しました。

今ではもう何処にも行けません。  
(7・3・31)

東京都 佃 喜美

(83歳)

私は昭和五十年八月に行われた第二回現地慰霊団に加えて頂き、クエゼリンに参りました。

当時はまだ同島への上陸が大変難しく歩けるのは墓苑の回りのみ。参拝は飛行機が給油をする間のみと云う厳しいもので、只々涙にくれ乍ら墓碑を拜んでいた思い出が残っております。

でも宿泊地マジユロに於ける島民の方々の交歓は誠に楽しいものでございまして。ご存知の「あの椰子の島」の歌詞にある様に、月の浜辺で歌い踊り明かした情景は、今も忘れる事が出来ません。

思えばこれは第一回の現地調査、慰霊の旅に六ヶ月にも渡る長時間と筆舌に尽し難いご苦勞をなさいました、今

は亡き浮田会長様、随行なさいました佐竹様お二方が現地に於ける皆様との温かい人間関係を作り上げて頂いた賜と今更乍ら有難く感じられます。

私も年を加え元氣ではおりますが再び現地慰霊は無理でございませぬ。でも「私は現地慰霊の第一期生よ」と當時を振り返り、しみじみと喜びを味っている昨今でございます。

去る四月二十三日靖國神社の春季大祭に参列して来ましたが妻と云う遺族が少なくなつたとの事を聞きました。五十年の時の流れを感じます。  
(7・5・6)

京都府 大町 末子

寒い冬もいつしか過ぎ、日一日と暖かくなつて参りました。

会長様にはいつもお世話様になりまして本当に有難うございます。先日は、貴重なお写真の載つた「南十字星」をお送り下さいまして重ねてお礼申し上げます。

戦後すでに五十年、長い年月でございました。

兄が海軍軍人として南方へ出征する元氣な姿を京都駅で見送つたのが、私にはつい昨日のような気が致します。記念誌「南十字星」の写真を見ながら、

元氣な兄の帰りをひたすら待ちつづけ、此の世を去つた両親を心に思いうかべ胸がいたみます。今では私も七十歳を



迎えようとしております。

去年は色々私の身に変った事があ  
りました。私が八月に入院し、主人が  
十一月に亡くなり、本当に不幸せな年  
でございました。でも今は大分元気を  
取り戻し毎日を過しております。

兄が戦死したマロエラップ島に、今  
日まで一度も行つたことがなく、済ま  
ないと思っております。今後機会があ  
りましたら、補助金なしでも行きたい  
ので、企画がありましたらお知らせ下  
さいますようお願いいたします。

記念誌代の一部に、少々お送りしま  
すのでお納め頂きとう存じます。

( 7・4・2 )

北海道 上原 帝二

「南十字星」ありがたく頂戴いたしま  
した。

私の弟、正春は「南十字星」58頁の  
年表の昭和十七年二月一日、米機動部  
隊のマーシャル島奇襲の時、ルオット  
の海軍航空隊に所属、空母エンタープ  
ライズをメジチ島附近に発見、爆装の  
上雷撃中空母よりの高角砲弾を被弾、  
愛機とともに散華しました。

金鶏勳章をいただきましたが、弟正  
春は満十九歳の誕生日でもあり感無量  
です。

平成四年四月厚生省主催マーシャル  
方面慰霊巡拝団に末弟と参加すること  
が出来ました。

私は昭和十五年より終戦まで、中国

大陸の第一戦で戦っており、末弟は海  
軍の特攻隊震洋の乗組員で、親との別  
れの盃も終っておりましたが終戦によ  
り一命を得ました。

私は趣味で詩吟をやっていますが、  
「凱旋」を吟ずる度に敗戦時の無念に  
涙が流れます。

敗戦のため復員したものの残念さを  
「敗戦詞」につづり吟じています。

環礁の原稿として頂ければ幸いです。  
会費、直会会費を同封しました残額  
はささやかであります。寄付とさせて  
頂きます。

( 7・3・1 )

敗 戦 詞

愛国の勇士 遠征に従ごう

信ずるは 是必勝と神風の吹くを

異境に屍を曝せるは 幾百萬なるを

肉親の胸は裂け 黙して袂を噛む

噫々誰乎知る 日本の敗るるを

天皇の詔書は敗戦を告ぐなり

歴戦の兵士は土を叩いて哭く

敗戦の屈辱は腸を断つ也

宣く聖旨は是耐へ難きに耐へと

興国を決意せば恥を忍んで還る

静岡県 服部 くにあ

三月の声を聞き陽ざしはめつきり春  
らしくなつてまいりましたが風はまだ  
まだ冷めたく感じます。  
会長様にはお健やかにご多忙な毎日  
をお過しのことと存じます。

この度は素晴らしい記念誌「南十字  
星」をお送りくださいまして本当にあ  
りがとうございました。会長様、役員  
の皆様は心から御礼を申し上げます。  
青い海、輝く南十字星が思い浮ぶよう  
な素晴らしい表紙、会長様のご祭文、  
あらためて読ませていただき、資料の  
収集、編集等々皆様のご苦労が、沁々  
と身に伝わつて参りました。このよう  
な遺族会に籍を置かせていただく身の  
幸せを感じました。

早速仏壇に供え報告をいたしました  
が、これから時間をかけて読ませてい  
たきます。

四月八日にはお世話になります。  
会長様、奥様、役員の皆様のご健康  
をお祈りしつつ御礼の言葉とさせてい  
たきます。

( 7・3・4 )

高知県 徳弘 萩子

お彼岸も近くなりましたのに、まだ  
まだ寒さを感じるこの頃でございます  
が、皆様御壮健で御活躍何よりと存じ  
ます。扱先日は御立派な鎮魂五十年誌

「南十字星」を御送付頂き誠に有難う  
存じました。

私も第六回現地慰霊に参加致しまし  
て、本当に懐しく又其の後の墓苑の管  
理のよさがうかがわれ、関係当局の現  
地の方々や皆様の御努力がしのばれ、  
大変感激致しました。

昨年は体調をくずし同行出来ませ  
んでしたが、来る四月には上京して当時  
御一緒しました方々と、久しぶりにお  
会いする約束をしております。

先ずは取り急ぎおそくなりましたが、  
お礼まで かしこ ( 7・3・15 )

東京都 蓮尾 敬子

( 故諭吉夫人 )

拜啓 早春の候となりました。この  
度は五十年記念誌「南十字星」をお送  
り下さいまして誠に有難うございま  
した。お心のこもった編集に会長様始め  
お手助け下さいました方々に心から感  
謝申し上げます。

写真が美しく特に平成六年八月の皆  
様の現地慰霊写真は、丁度主人が病床  
の時で、あれから十日位して永眠して  
おりまして、何か因縁深いものを感じ  
ました。きっと自分もクエゼリン、ル  
オットに行っている夢をみていたので  
はないでしょうか。早速仏壇に供えま  
して拡げて話かけました。

この様な立派な御誌を頂戴し故人共  
共厚く御礼申し上げます。 敬具

( 7・3・1 )





## お元気

## ですか？

&lt; 1 &gt;

- ① お元気ですか
- ② 差支えなければお歳は
- ③ ご家族の状況
- ④ 心に残る思い出
- ⑤ “環礁”に対するご意見
- ⑥ 趣味、おけい古ごとなど
- ⑦ 当会へのご要望、その他

内、国外)、スポーツの観戦等です。  
⑦益々元気で会を続けて下さい。御苦  
勞様です。

ミレー鳥や飢餓と空襲南瓜花  
灼熱に潮騒祈る地藏尊

父戦死 弟自決 桜散る

( 7・2・20 )

宮城県 相馬 ツキ

三月も中旬となり、寒い東北にも漸  
く暖かい春が訪れて参りました。

「お元気ですか」のアンケートに答え  
て、拙い文章でございますが回答させ  
て頂きます。

①元気で毎日楽しく過して居ります。  
②七十九歳になりました。健康には充  
分注意して居ます。

③家族は長男夫婦と孫二人の五人です。  
長男は会社員。孫の上は女の子(三月  
大学卒業)、下は男の子(三月高校卒  
業)で四月に専門学校に進学の予定で  
す。

私は長い間故郷の秋田県で一人暮し  
をして居りましたが、長男から「遠く  
離れて居ると心配だから同居する様に」  
と再三言われ、平成五年七月、長年住  
み馴れた土地を引越して来ました。

最初は馴れぬ土地での生活は大変で  
したが、長男や孫達に囲まれ、今では  
同居して良かったと毎日の幸せを感じ  
て居ります。

⑦五十年記念誌「南十字星」をお送り  
下さいまして有難うございました。早

速拝見致し写真記録、マージナルとギ  
ルバート諸島における戦闘の概要を読  
み始めて、夫の玉碎したタラワの状況  
を知ることが出来ました。私は慰霊巡  
拝には参加出来ませんでしたので、記  
念誌に載っているベシオ島の写真を拝  
見し、此処で夫が玉碎したのかと思っ  
とジーンと胸に迫って来るものがあり  
ました。

これだけの写真及び資料を揃える迄  
には、佐藤会長様始め委員の皆様には  
大変御苦労をお掛け致しました。本当  
に有難うございました。

今後共何卒宜しくお願い致します。  
( 7・3・17 )

栃木県 木村 恒三郎

①カゼもひかず元気です。  
②この六月で七十八歳です。

③男兄弟五人ですが、海軍に二人、陸  
軍に三人出征しました。海軍の兄穂一  
郎はミレー島で戦死、弟長重郎も海軍で  
トラック島で戦死し、他の三人は無事  
帰還しました。穂一郎には出征後生ま  
れた娘(昭和十六年生)が一人おりま  
した。穂一郎の妻は家の事情で私と再  
婚しました。娘は私の養女として育て  
て、昭和五十三年に嫁がせ、今では子  
供二人も成長し、私達と同居生活をし  
ております。

鎮魂の思いをこめた充実した内容に  
ふさわしい立派な装幀、きめ細い心く  
ばりの見られる編集に、その任に当ら  
れた方々の御苦労に対して、深い深い  
敬意と感謝を申し上げます。写真は殊  
に立派でした。

昨日落手いたしてから今日にいたる  
まで、目を離さず深い感激を以って、  
ずっと拝読いたしました。当時のこと  
やその後のことなど涙と感激で五十年  
前のことが、今更のように思い出され  
感謝の名記念誌と思えます。

父は五十五歳で応召になり、五十九

歳の高齢で戦死しましたが、この「南  
十字星」を見形がわりの家宝といたし、  
子々孫々に大事に伝えていきたいと思っ  
ています。

会長さんほか皆さまに深い感謝を  
捧げてお礼と致します。

「お元気ですか」に答えて

①おかげさまで誠に元気でいます。

②八十二歳を迎えました。妻は七十六  
歳です。

③長男は五十五歳で、小学校校長、孫  
二人は社会人。次男は五十二歳で仙台  
で建設会社社長。長女は五十歳で大学  
教授に嫁し仙台に在住しております。

④父の戦死と、陸軍将校の末弟がスマ  
トラで敗戦の悲憤で自決したと聞いた  
こと。敗戦に依る虚脱状態。昭和六十  
三年秋の叙勲に夫婦で参内したこと。

⑤歴代の会長さん達の誠に誠意こもる  
御努力に只々感謝感激あるのみ。

⑥俳句、謠曲、何れも初歩、旅行(国



現在二十五アール程の農業をやっておりますので、間もなく忙しくなりますが運動のつもりで頑張りたいと思っております。

④二十年前に皆さんと一緒に現地慰霊に行くつもりで五年有効のパスポートを取得しましたが、勤務の都合で行かれません。今は老齢ですので墓参が出来ず誠に残念に思っています。

⑤環礁を拝見させていただく度に南海の孤島に散った多くの兵士の皆さんや、兄弟を偲んでおります。

⑦マーシャル方面遺族会のみますますのご発展と皆々様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。(7・3・18)

秋田県 奥山 キノ

東北の片田舎にもそろそろ春が近づいてまいりました。

「環礁」や「南十字星」を読ませて頂くと、もう一度タラワに行きたくなります。

①健康に心がけて元気で。

②大正五年五月五日生れで七十九歳。

③タラワ玉砕の四十日前に生れた長男と嫁と孫男二人女一人ですが新潟に住んでいますので、私は一人暮らしです。

⑥難聴ですのでお話が聞けないので、大好きな洋裁、手芸もほどほどにして草花作りに精出して日光浴に心がけております。足と目が丈夫なので例年の慰霊祭には参加させて頂きたいと思つ

ております。

⑦記念誌を見て思い出しました。昭和五十七年十一月に、タラワの南瀛の碑の除幕式と慰霊祭に参加したとき、佐藤会長様の説明で南十字星を此の目で見る事が出来ました。遺族会のバッジとそっくりだと感じたのを思い出しております。記念誌の一頁一頁に思い出が一杯つまっております。宝物として大切に保管します。完成までの皆様の御苦労を無駄にはならないと心に決めております。(7・3・16)

東京都 鈴木 梅太郎

①元気です。

②数えの九十八歳。

③戦死した甥は幼少の頃父と死別しその後母と兄にも死別したので、叔父の私の処で育てました。

④甥は結婚適齢期であり、心にきめた方があったが結婚はしませんでした。

⑤「環礁」はいろいろと心打たれる記事が沢山ありましたので続けて下さい。

⑥趣味もおけいこもやっていません。ささやかな零細企業に参画しておりますが、不況なので収入はありません。厚生年金でくらしております。

⑦会は、英霊の為永遠に存続して頂き度いと希望しております。

「南十字星」は立派な記念となりますので永遠に保存させて頂きます。(7・3・6)

佐賀県 山田 雪子

①腰痛のため歩行が困難です。

②七十歳になりました。

③一人暮らしでございます。

④ルオット島慰霊の時のお写真が大変心に残ります。

⑤大変有難く感謝をしながら拝読させて頂いて居ります。

⑥読書、手仕事です。

⑦五十年記念誌を頂いた二月二十七日は丁度母の祥月命日で、父母もきつと悦び、そして感謝していることと存じます。在りし日の両親を思い出し感無量でございます。(7・3・21)

(注) 御父君は二十四航空戦隊司令官 海軍中将山田道行命)

埼玉県 千田 恒子

思い出ずるままに

昭和十八年の夏、南方へ転属する夫の乗る川西式の飛行艇を、横浜の本牧で見送ってから、私の人生の転ががはじまりました。

横須賀郵便局気付、ウ九〇、ウ四九、第三寿丸宛の便りを何十回出した事か。

昭和十九年二月、新聞紙上で、クエゼリン方面の玉砕が報じられましたが、夫の戦死は信じたくありませんでした。それが、半年経た八月に戦死の公報が入り、はじめて戦死という事を確認し、

戦死者の遺族としての生活がはじまったのです。人前では決して涙を見せてはいけなないと、物陰にかくれて淋しい思いをしたあの頃の事、二十歳そこそこの私には本当に厳しい日常でした。

戦中戦後を通じ、誰しもが経験した紆余曲折の生活を余儀なくされた時代でした。世の中が少しづつ平和を取戻すにつれて、南方の海に散った人々の上に、思いを馳せない日はありませんでした。母国を守るべく、太平洋の防波堤として散って行つた多くの人々のお陰で、今日の平和が有る事は否めない事実なのです。

関東大震災の年に生れた私は、今年当り年の亥、七十二歳です。すでに戦死した夫の年齢の倍以上生きて来た事になります。しみじみと、月日の経つ早さに驚きをかみしめております。健康には、まだまだ自信は有りますが、根気の要る趣味からは遠ざかつて居り、気軽な旅行などに楽しみを求めている此の頃です。戦死した夫が、若かりし頃、日本郵船に籍を置いていた時期がありました。横浜市にある郵船の資料館に足を運び、遠い戦前の、日本の海の男達の良き時代の思い出に浸った事もありました。

今では、故郷の図書館の婦人読書グループの文集や、郷土の季刊誌「羽後公論」に、投句、投稿する事が、現在の私の唯一の息抜きなのです。(7・3・4)



鎮魂 五十年記念誌

「南十字星」刊行

かねてお約束しておりましたように五十年祭記念事業の一環として記念誌を刊行し、平成六年分を含む会費三ヶ年以上納入済みの方に発送しました。該当する方で受取っていない方はすぐお知らせ下さい。

予備が若干ありますので、別に欲しい方には在庫限り一部五千円(送料共)でお頒けしております。

A 4 版 68 頁 題字は大給相談役御揮毫内容は写真記録 20 頁、戦域の状況 11 頁 本会のあゆみ 17 頁、年表 10 頁ほか。上製本(濃紺クロス貼 題字金箔押)



歐洲 紀行

新潟県 齋田 よしゑ

今まさに北極越ゆとふサインあり地球を旅す胸高なりて

花卉のわが肩に散る昼さがり歩道のレストランにパスタを食む

ほほゑみてピエトロ口寺院のバルコニーに法王手を挙ぐ隣人の如

アルプスの麓はぶだうの棚続き段段畑に農夫ら見えずも

尖塔はセーヌのほとりに聳え立ち庭のバラの香われらを迎ふ

マロニエの木陰歩みて夕つ方凱旋門の墓前に立てり

モナ・リザの微笑みに憧れルーヴルの絵に真向ひて心足らへり

ルーヴルは日曜無料の今日なればミロのヴィナス行き帰り見る

ドーバーの白きチヨークの崖巡り朝霧けむるロンドン港に入る

女王と同じ歳なる吾が人生温かき道歩み行きたし

わたくしの生涯学習

群馬県 日向野 キク

始めてクレヨン画を描いたのは小学校二年生。タンポポ、すみれのハナビラや葉の数を数えて一番よく似た色で描き、上手な順に張り出され一等になり嬉しかったです。以来図画の時間が楽しみでした。

家から浅間・妙義・赤城山が見渡せて、四季毎の変化も美しく、よく写生ごっこをしました。学生の時東京の展覧会で、池上秀峰先生の富士山の絵を見て心が洗われた様な深い感動を覚えました。河合玉堂、池上先生の絵やミレーの晩鐘も大好きでした。

先の大戦中橋本明治先生が親戚の茶室を借り画室にして、多くの日本画を描いておられ、時折り作品を拝見する機会が有り心楽しく魅せられました。夫の戦死で二児の養育に専念。錆ついた頭で還暦を迎えたその後、市の成人学級日本画を受講。とちの実会に通っています。何時までたっても上手になれませんが、描いている間は全てを忘れ、無我の境に入れ救われます。頭を使いながら指先を動かすのでストレス解消や呆け防止に役立てばと願っています。79歳の私が好きな絵を学べるのも家族の温かい理解や先生、クラスの皆様のお陰と感謝しております。

(絵は、前橋市内広瀬川の貯水池)



尋ねびと

父、腰川 完(明治三十八年生れ、兵曹長、千葉県出身)は徴用船昭栄丸に乗組み中、昭和十八年十二月十九日にクエゼリンで戦死しました。父の日記帖にあった次の方々を探しております。ご連絡いただけましたら幸いです。

ボルネオの陸戦隊の友成部隊、宮崎隊、加藤木隊所属の宮本兵曹、島田、秋山、尾台、丸山各一水 昭栄丸乗組みの山口兵曹、熊谷、鈴木各水兵長

千葉県印旛郡印西町大森五二七-一 腰川 妙子 電話〇四七六一四二一六五四九



会友井上義夫さんを悼む

会友 吉良 正義

井上先輩が今年一月十日に逝去されたことを伺い、会のため惜しい方を失った思いと、奥様のお悲しみを察して暗然となりました。

井上さんは、昭和十四年に佐世保海兵団に入団され、艦船や部隊に勤務の後昭和十六年南方に赴き、クエゼリンの61警備隊庶務係として勤務中、その頃最も恐れられていた肋膜炎に罹り、心ならずも戦列をはなれ内地に送還されました。その後両肺の大手術三回、肋骨十本切除、輸血四千cc、血清肝炎などを経験しましたが奇蹟的に快癒し、海上自衛隊の勤務に耐えられるに至りましたが、これはクエゼリンの戦友たちが護ってくれたお陰と常々井上さんは云っておられました。

井上さんは病氣再発のため昭和四十六年に海上自衛隊を退職されるまで休日等には、つとめて近県の戦歿遺族たちを尋ねて慰問、激励されました。クエゼリンやタラの島の遺族を会の本部から預っておき遺族にお渡ししたこと、会への入会手続きを代理したこと、会へ度々ありました。大勢の遺族を集めて合同慰霊祭を催したこと三回に及び、読売新聞その他に報道されました。

私は井上さんの三年後輩で、井上さんがクエゼリンを離れたあと、61警備

隊に配属され、十八年九月に海軍工機学校に入校のため離島したので、戦時中はお会いする機会がなく、初めてお会いしたのは平成二年の本会の慰霊祭・直会でした。井上さんが「環礁」9号から60号までのうち九回に及ぶ寄稿文を読みなおしますと、戦死者とその遺族に対する熱い思いがひしひしと感じられます。

「戦友の忌の

また巡り来ぬ梅の花

二月六日がまたやってくる。」

で始まる「環礁」60号の「あの日から五十年クエゼリン島の戦友たち」は井上さんのお別れの言葉になってしまいました。文の末尾を「願わくば人類の英知をもつて、不幸な戦争が永久に起こらないことを祈念することしきりである」と結んでいるのは井上先輩の七十四年の生涯の総決算の語と聴かれました。

本部に宛てた奥様のお便りに「毎年春の慰霊祭に参拝し御遺族の皆様にお目にかかるのを生き甲斐に致して居りましたのに、残念であつたらうと思ひます。会の名簿から名を消して頂くことになりまますので故人の最後の寸志として心ばかりお納め頂きとう存じます。長い間親しくして頂いた方々に御礼を申し上げ、英霊の御平安をお祈り致します」とあつた由洩れ承りました。

今頃井上さんは、懐しい戦友と心ゆく迄お話しされ、今の日本の様子を語っておられると思います。

名簿訂正

(8) ◎ 平成3年8月15日発行の会員名簿を次のとおり訂正いたします。

<頁>	<氏名>	<訂正事項>
27	古市モト	〒969-14 福島県安達郡安達町米沢字山中65に変更
27	北條 晃	〒311-13 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町5349 ☎0292-67-2297 戦歿者北條西重 続柄弟 所属部隊14魚調 戦歿年月日19.2.6 戦歿地クエゼリン<新入会>
30	天野好子	〒333 川口市芝1-33-14 ☎0482-65-6686 戦歿者藤田藤市 続柄長女 所属部隊3132 戦歿年月日19.2.6 戦歿地クエゼリン<新入会>
32	岡 ちやう	松岡元治が継承
36	大野清子	〒151 渋谷区千駄ヶ谷3-25-1 ☎03-3404-0902 31頁中田テルより継承
38	関野シモ	小平市美園町1-8-1-201に変更
39	布川慶一	〒174 板橋区坂下3-20-1 蓮根ファミリーハイツ617 ☎03-5392-0615に変更
40	星野綾子	〒120 足立区千住寿町26-2 ☎03-3882-1506に変更
42	岩田とし子	横浜市都築区は都築区に訂正
42	上田文子	横須賀市小矢部3-1-11 ☎0468-35-5259に変更
43	渋谷良雄	横浜市中区本牧間門48-11に変更
44	鈴木孝輔	横浜市都築区は都築区に訂正
45	松江正孝	横浜市緑区は青葉区に訂正
45	安吉水梅子	横浜市栄区上郷町2136-26に変更
45	馬場富美子	☎0468-51-5711追加
57	吉見美津治	守口市平代町2-15 所属部隊3132に変更
57	奥田義寛	〒602 京都市上京区新出水通土屋町東入田中町477 戦歿者吉見彦太郎 続柄弟 所属部隊不明 戦歿年月日18.11.25 戦歿地タラワ<新入会>
59	佐々木千鶴子	〒634 橿原市白樺町6-15-5 ☎07442-7-1783 戦歿者奥田一 続柄長男 所属部隊盤谷丸 戦歿年月日18.5.20 戦歿地ヤルト<新入会>
61	日野笑子	〒730 広島市中区大手町5-14-10大手町コータス902 ☎082-246-4035 戦歿者奥田一 続柄長女 所属部隊盤谷丸 戦歿年月日18.5.20 戦歿地ヤルト<新入会>
64	日野笑子	〒791-12 愛媛県上浮穴郡久万町大字久万1197-17 ☎0892-21-0786 戦歿者山之内勲 続柄妹 所属部隊佐7特 戦歿年月日18.11.25 戦歿地タラワ<新入会>







鳥取県	杉川 及江	和田 芳久
島根県	伊瀬 忠夫	沖 縄 県 石原 キク 久高 友三
岡山県	金子ミサヲ	宮城カマド
広島県	浦手 ハル	篤志会員・会友等
小林アヤ子	藤本 正	栗林徳五郎 土屋 太郎 松平 永芳
三沢キヨメ	佐々木千鶴子	有田 年 長谷川 敏 福満よし子
山口県	内富ミツヨ	大里 清 小林 重雄 秋元 輝夫
香川県	秋山 武	足立 広信 石元 利親 井上 義夫
多田 員雄	富田トシ子	江村 源次 香月 正紀 川副 克己
愛媛県	伊藤 梅子	吉良 正義 橋本 岩樹 兵頭 義彦
大塚喜久雄	久保田泰子	キリバス共和国名誉領事室 小賀坂四郎
長岡 俊夫	松友 都	志賀 淑雄 篠崎 英夫 菅野 久雄
森田 静子	山岡シゲミ	高田源次郎 豊谷 秀光 島田 興生
渡部 守	小松千代美	以上は平成六年十二月一日から七年
高知県	馬場 常	五月三十一日までに、寄付された方々
徳弘 萩子	青山アヤ子	二九八名で、その合計金額は百五十四
福岡県	鐘ヶ江敬介	万六千七百三十二円でした。
居石 邦昌	秦 サカエ	
近藤シヅエ	家迫 政雄	
吉松 貞子	草場 マキ	
佐賀県	松永タツ子	
坂本 トセ	安達シツヨ	
長崎県	前田 フサ	
林 文枝	森 テル子	
山下 タエ	植川 二男	
熊本県	鬼海 富夫	
片山 玲子	村上佳寿子	
塚野ヨシ子	衛藤 金喜	
大分県	高橋 重美	
宮崎県	山内 キク	
森 フサエ	川畑ツルエ	
鹿児島県	野平 ヨネ	
原田 惟行	村上 ノキ	

創立十五周年を迎えた  
靖國神社奉賛会

祖国のために尊いお命を捧げられた二四六万余柱の英霊をお祀りする靖國神社の末永き御安泰を願って、奉賛会が発足してから十五年になりました。平成七年六月十六日、第十五回奉賛金奉納式並びに奉納奉告祭が、関係者約二百名参列のもとに、拜殿及び御本殿で厳肅に斎行されました。今回の奉納金は一億八千七百余万元、創立以来の累計は二十億三千余万元と承りました。この中には本会会員大勢の浄財が含まれております。御協力まことにありがとうございます。

靖國神社を崇敬しお護りする奉賛会に入会しましょう  
護国の英霊の鎮ります靖國神社の末永き御安泰のために、御祭神に最も身近かな私どもは全員が奉賛会に入会しましょう

本部だより

☆お便りをお寄せ下さい  
この「環礁」を、同じ境遇の仲間たちの心のふれ合いの場としてお気軽に御利用下さい。身の周りのこと、趣味やレクリエーションのこと、この会に対する率直な注文など何なりとお寄せ下さい。採否と多少の手直しはあらかじめ御了承下さい。  
和歌、俳句、川柳、書道、絵、民謡、謡曲、料理などを勉強、おけい古をしている方、ハイキング、ゲートボール、釣、写真、旅行、園芸、カラオケなどを楽しんでる方は話題が沢山あります。誌上に紹介したいと思います。  
「自分史」を作られた方は、お差支えなければお貸し頂きたく存じます。  
「お元氣ですか」アンケートにも皆様活発な回答をお待ちいたします。  
☆入会のおすすぬ  
本会は、会費を納めた者を会員とし

て登録し二月と八月に会報「環礁」をお届けしております。  
マーシャル諸島とギルバート諸島方面の戦死者の親族ならば誰でも、又、御一柱に何名でも御入会頂けます。同方面に勤務された戦友の皆様には会友として御参加頂いております。会員、会友とも年会費は二千元で入会金は要りません。  
☆会費完納のお願い  
本会の活動に必要な経費はすべて会員と会友の浄財だけで賄われており、他からの補助等は一切ありません。会を長く続けてゆくためには財政の安定が是非とも必要でありますので、会費の完納にご協力下さい。会費を納めない方は退会の申し入れがあったものとして、会員名簿から削除し、「環礁」の発送を中止しますので、事情御賢察の上悪しからず御了承下さい。  
五十年記念誌に対する感想文、礼状は本号に掲載したもののほかに四十六通ありました。別に電話によるもの二十人あり反響の大きかったことに驚いています。

本 部  
〒103 東京都中央区日本橋人形町  
一八一(二)泉商事ビル)  
マーシャル方面遺族会  
電話〇三三三六六一一八七六〇  
FAX〇三三三六六一一六二四一